



## 「大谷貯水池築造工事 概要図(第6次拡張事業)」 昭和28年(1953年)～32年(1957年)

昭和27年の第6次拡張計画は、本市の水道史上、創設に次ぐ大型プランである。時流の推移に伴う産業の振興、人口の増加などにより水資源は枯渇の様相を呈し、その開発は緊急の課題であった。

そこで市は、かねてから「第2の水源」と目していた市内忌部町の熊山、大川端（千本貯水池の上流）を候補地とし、26年来、地元の土地所有者らと用地買収の交渉などを重ね、翌27年にいたり、漸くその了解を得、同年12月17日、知事の副申を添えて建設・厚生両省に認可を申請した。同月27日、異例の早さで認可を受け、28年4月着工した。大谷貯水池は、32年4月1日に竣工した。

第6次拡張事業の工費は、3億8,800万円を要した。